

大和の薬よもやま話

三光丸クスリ資料館 館長 浅見 潤氏

火曜午餐会 4月第2例会を、20日、5階大会議室で開催した。700年の歴史を持つ大和の薬・三光丸。講師の浅見潤氏は、置き薬の歴史や薬の神々について解説、「置き薬は信頼関係に基づいた日本独特の商法。配達員は文化と情報伝達の担い手でもあった」と語った。講演要旨は次の通り。

〈富山売薬と大和売薬〉

「富山売薬」「立山信仰」を「立山曼荼羅」を携えて布教する際、

のが始まり。富山売薬と大和売薬は、値引きや中傷等競合した時期もあったが、紳士協定を締結し協力しあうようになった。

〈先用後利〉(せんようこうり)

「薬を預け、一定期間後に訪問、使用分だけ代金を頂く」情報伝達手段の少ない時代、配達員は①情報源②縁談の世話や名付け親③薬の知識伝達④代筆として、また、⑤富山特産の種もみや、大和スイカの種を全国に広める⑥「神薬」と呼ばれた気付け薬を北海道の開拓民に届ける等、活躍した。現在は、①医療機関との連携による患者の健康管理②都会の孤独生活者支援③正しい健康情報の提供等を行っている。

〈医薬の神々と仏〉

「アスクレーピオス」ギリシャ神話の医術の天才。「アスクレーピオスの杖」は医学の象徴。「ヒュギエイア」アスクレーピオスの娘で健康・衛生を司る女神。「ヒュギエイアの杯」は薬学のシンボル。「ダンヴァンタリ」古代インド医学「アーユルヴェーダ」の神。不老不死のクスリ「アマリタ(甘露)」の壺を持つ。「大国主と因幡の白兔」大国主命が皮を剥がされたウサギに「真水で体を洗い、蒲の穂をつけると治る」と教えた。「小彦命名」海から現れ、海に消えた医薬の神。「神農(しんのう)」薬か毒か確かめるためあらゆるものを口に入れた的屋の神様。「薬師如来」薬壺を持った仏様。「役行者」修験道の開祖。陀羅尼助を作った。「行基」貧民、病人の救済に務めた。「鑑真」仏教の戒律と最先端の薬学を伝えた。「光明皇后」貧しい人々や孤児を救うため悲田院、施薬院を建てた。「空海」加持祈祷と五明に

信者の家に薬等を預け、次の年に回収していたのが始まり。「大和売薬」春日大社、興福寺の軍事・警察機構として力があつた越智氏

通じた天才僧侶。「栄西」宋で入手した茶の種を持ち帰り、日本で栽培した。「叡尊」夢のお告げで薬の製法を授かった、西大寺中興の祖。「忍性」貧民とハンセン病患者の救済に奔走。

〈クスリの起源〉

寄生虫に侵されたチンパンジーが、ベルノニアの枝を折り、茎の皮をむいて髓の汁をすすり快癒。ヒトは薬と毒を見分ける動物に変わった。

〈プラセボ(偽薬)効果〉

有効成分が含まれていない薬剤(偽薬、プラセボ)によって、症状の改善や副作用の出現がみられること。偽薬効果。背景に、暗示や自然治癒力がある。

〈驚異の自然治癒力〉

「手当て(治療行為)」患部に手を当てている内に症状が収まる。「エンドルフィン(脳内麻薬)」痛みなどの強いストレスを感じた時、脳下垂体から分泌される物質。

(三光丸の米田氏と同族)が、南北朝時代、後醍醐天皇に薬を献上。太陽、月、星の三光思想から「三光丸」という名を与えられた

〈疫病除けの守り神

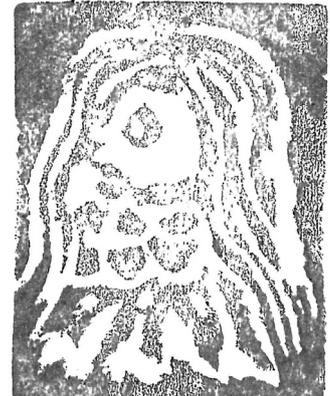
「アマビエ」

新型コロナ予防で有名になった予言獣「アマビエ」は、江戸末期から明治にかけて日本各地で出現、豊作や疫病の流行を予言した。「我が姿を写して人々に見せるならば、きっと病から逃れられるであろう」

〈疫病封じの神獣「白澤」

(はくたく)

古代中国における伝説の聖獣、霊獣、神獣。人類を解し、病気封じの霊獣としてもはやされ、幕末期、疱瘡(天然痘)、コレラなどが流行した際、白澤図が飛ぶように売れた。



アマビエ

